
フェアリーテイル 龍の魂を持つもの

キッド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フュアリーテイル 龍の魂を持つもの

【NZコード】

N3101X

【作者名】

キッド

【あらすじ】

フュアリーテイルの一次創作です

主人公チートはやだ～という人は、お戻りください

プロローグ（前書き）

初めまして、処女作ですが、楽しんでいただけたら嬉しいです

プロローグ

俺の名前は龍泉 ヒロキ りゅういすみ ひろき

中学三年生だ

ちなみに今は本屋でフェアリー・テイルを買っていた

え？ 受験勉強？ 推薦で免除

俺は誰に喋っている？

まあいい

とりあえず帰る
ドゴッ

何だ？ 何の音だ？

なんだ、俺が居眠り運転のトラックに惹かれただけか

ちょっと待て！！

此処にいる俺何！？

此処はどこだ？

『魂一つ御案内』

「あ、起きた？」

何？この人

「私？私は神」

うわあ～

「何その変な人を見る目は」

確か、腕のいい精神科医いたかな？」

「私は正常です！」

心を読みやがった

「神ですから」

認めるか

「神が何の用ですか？」

「やつと喋つた

実はあの事故は本来はなかつた物

私が当番の時に

「何があつたんだ」

「ゲームしてて見張るのをサボつて

「シネやこのダメ神がああああああ！！」

俺の拳をかわした？

「死にたくないよ」

「で、どーすんだ？」

「君にはフェアリー・テイルに転生して貰いま～す」

軽く言いやがつた

「願い5個聞くからさあ

多くね？」

「サービス」

「じゃあ、まず一つ俺の魔法は龍になる、龍の魂 ドラゴンソウル
中身は魔王バハムート、イグニール、メタリカーナ、グランディ

一ネ、後は任せる

2つ目、魔力と精神力多め

3つ目、いずれ行く別世界でも、魔法を使えるようにしろ

4つ目、ギルドは化猫の宿 ケットシェルター

五つ目は任せる

「了解では、さうばだあ～」

いきなり床に穴が開いて俺は落ちた

俺の第2の人生の始まりだ

で

第一話 ギルド化猫の宿（前書き）

駄文かもしだせんが宜しくお願ひいたします
訂正

第一話 ギルド化猫の宿

「うわああ！」

只今落下中

ドゴオオオン

「あの糞神め・・・・・・

つてなんだこの格好！！」

俺はよくわからない格好をしていた

「しかも刀まで・・・・・夕凧？」

『や

出たなダメ神

『そうツンツンしないで、君はツンデレかい？

ちなみにその格好は私の大好きネ〇まーーの桜〇刹那と同じ格好だよ

「お前の趣味を持ち込むな！」

まつたく

『数分後面白い事あるよ

バイビー』

やっと消えたよ、面白い事つてなんだ？

2分後

「身体が縮んだ！？しかも頭が痛てえ」

あれは、廃村か、休ませて貰うか

「すいませんおじいさん少し休ませて下さい・・・・・おつと、子供が寝てたのか・・・・・俺も糞神のせいで縮んだけどよ（ボソッ）少し寝るか

神サイド

「どうしよう

記憶消すの忘れてた

今は寝てるみたいだし、今のうちに記憶消しとー」

ヒロキサイド

「……………」

起きあくび

起きあくび

誰だ？

「ふあ～。・・・・・あれ？君は？」

「私はウェンディ・マーベルです」

「俺はヒロキ、以後宜しく」

「それにしておじいちゃん此処は何処？」

本当に此処はどこだ？

「ジーラールはギルドにつれてつてくれるって……」

「ギ・・ギルドじやよ！－

此処は魔導士ギルドじや－！－！

ギルド・・・・此処が

「本当！？」

ギルドか何か思い出すまで此処にいよう

「自分はあなたをマスターとお見受けします。

良ければ、自分をこのギルドに入れて下さい

「私も」

大丈夫だろうか

「わかった、おぬしらを入れよう。

外に仲間達が待っているよ。少し外を見て回りなさい

「わかりました」

「良かつたなウーンティ。ギルドにはいれて」
「うん」「

10分後

「このギルドマークはどこにつける?」

「私は右肩」

「自分は左肩」

ポン

「よし、主等2人はギルド化猫の宿のメンバーになつたぞい」

「やつたやつた」

「良かつたな」

「お主等家はどうする?」

家か

「あのヒロキさん」

「別に敬語じゃなくていいよ。

それでなんだい?」

「えつと、その・・・一人は淋しいと言つか不安なので一緒に住みませんか?」

え?

「俺は構わないけど・・・良いの?」

「うん」

「わかった」

こんな小さな子を一人には出来ないよな

第一話 ギルド化猫の宿（後書き）

次回はシャルルの卵が出ます

謎の卵（前書き）

皆様にアンケートを採りたいと思います
内容はもう六年後でオラシオンセイスの討伐に行くか
まだ、その前のサブを入れるかです

サブにするながどのようなストーリーが良いか感想でお書きください

書き方は前者、後者で宜しくお願ひいたします

それまでしばらく更新ありません
誠に申し訳御座いません

謎の卵

ギルド入門から一年俺達はギルドに馴染んできた

「みんなあ～」

「どうしたウエンディ？」

ウエンディが持っているのは・・・卵？

「でかいな。目玉焼きで食うのか？」

「ナオキいいなそれ」

「いやいやバスク、卵焼きだろ」

食い意地はつてんな

「駄目です。これは私が育てます！」

「何が生まれるんでしょうねマスター」

トクトクトク

ことつ

ゴクッゴクッ

「瓶飲みすんなら注ぐなよーーー！」

マスターはいつもどうりだ

「そこはゆで卵じやーーー！」

ビチャビチャ

飲み干せよーーー！

「てか今更かよーーー！」

「ウエンディ、それどうやって孵すんだ？」

「布団に入れる」

いいのか・・・それで？

「ヒロキ、ウエンディ、お主等に依頼があるぞ

「内容は？」

「森バルカン30頭の討伐じや

多いな！」

「わかりました行つて参ります

「行つてきます

その前に卵置いてきます」

とある森

「此処だな

ドツドツドツ

「ウホー！」

これがバルカンか

シャツ

「ウェンディ、俺の後ろに・・・
・・・・・参る！」

ズバッ

「ウホツ！」

「まだまだあ！！」

ズババババババツ

「グハツ」

一体目

「キヤー！」

「ウェンディ！」

『ウツホツホー！』

群れで来たあ！

「きりがない。

使うか・・・・・・・韋駄天流

『ブルウワア』

「後何体だ？」

『ブオツホー』

「ウホー！」

あいつが頭か

「お前を狩れば後は楽だ！くたばれ！」

シユツ

かわした！？

『人間の女だ』

喋れんのかよ

「ウェンディから離れやがれ」

ドンッ

いきなり背後に衝撃が走った
しまつたまだいたのか

「ガハツ！」

俺は木に衝突した

「キヤー！！！」

「ウェンディ！」

「・・・・やい猿どもウェンディから離れる」
俺は霸氣に殺氣を混ぜたものをバルカンにぶつけた

「・・・・・・・・」

バルカンは無言で後退りした

「ウェンディ、こっちに」

「はい」

ウェンディの目には涙が溜まっていた

「怖かつたな

刀落としたし

魔法使うか

「え！？ヒロキさん魔法使つて居なかつたのですか！？」

「うん、俺がどんな風に変わつても怖がらないでね
ハアアアアアアア！」

「ドラゴンソウル！！」

龍王バハムート

「あわわわわ」

バルカンは逃げだしそうだった

「シャルル」

「ウェンディいいのか・・・それで」

「良いよね。シャルル」

「飛べる」の技術で、

目次二〇行

は？

『 猫が喋つたああああああああ！？』

「ウハウンティガ」「この飼い主になるんだな」「頑張ります！」

キャラクター設定（前書き）

アンケートの回答例を出します

- 1 まだ少しサブストーリーを入れる

内容

ヒロキとウーンディが街に買い物

例その2

- 1 オラシオンセイス討伐に行く

宜しくお願ひいたします

キャラクター設定

名前 ヒロキ

生前 龍泉 ヒロキ

ダメ神のミスで死んでフェアリー・テイルに転生した

姿は

オラシオンセイス討伐時にはナツと同じくらい
服はネギま！！の桜咲刹那の鳥族の服

武器は夕凪、オリジナル韋馱天流ドラゴンソウルを使う

魔法は龍の魂

中身は

龍王バハムート

火龍イグニール

鉄龍メタリカーナ

天龍グランディーネ

水龍アクアビクス

氷龍ブリザーナ

雷龍ボルテクス

地龍グランドル

光龍フラッシュヤー

闇龍ダークネス

風龍トルネーガ

縁龍グリダガード

いつも夕凪で戦闘をしているため、ウェンディしかこの魔法を知らない

髪の色紫 田は赤い

ドラゴンソウルは普通の龍状態と龍人状態（ドラゴニコートモードとヒロキは読んでいる）になれる

第3話 休暇（前書き）

アンケートの返事が来ない
これじゃ書けないよ～
仮にもこのネタしか思いついません（汗）
皆様よろしくお願いいたします

第3話 休暇

シャルル誕生から6年
ヒロキとウェンディの家

「ウェンディ！ シャルル！ 朝飯できただぞ」

「はーい」と二階からウェンディの元気な返事が聞こえる
朝飯ばギルドの後ろの森にある木の実を塗つたトーストだ

「美味しそうですね」

「ほんとよね」

美味しそう・・・か

「美味しそうじゃない、美味しいんだ」

いただきますと同時にパンにかぶりつくウェンディとシャルル
「とりあえず俺は外にいる、食べ終わったら来い」

シユツ

シャシャシャシャシャ

「腕は大丈夫、なまつてないな」

「ヒロキさん」

来たか

「よし行くか」

ギルド

「マスター來ました」

「話つて何ですか？」

俺とウーンティはマスターに呼び出されたのだ

「おぬしらで休暇を『』える

・・・・・休暇？

「おぬしらいつもクエストばかりで疲れてあるだろ？から休暇をと思つての」

「そのお気遣い感謝します」

「ありがとう』『』こますマスター』

休暇がどこ行くかな

「このお金を使いなさい』

「マスターそんな

「よいからよいから

言葉に甘えるか

「感謝します」

「いつてらつしゃい』

休暇を貰つたは良いが・・・

「ヒロキさん、あの、マグノリアに行きたいのですけど良いですか

?』

マグノリアか、いいな

「良いぜ』

シャルルはどうじよ

「私はいいわ、2人で行つてきなさい』

「シャルルいいの？』

「そのかわりお土産よろしくね』

マグノリア

「つきましたー！」

「さてと何処からいく？」

「この洋服店はどうですか？」

ウェンディがガイドブック（二つの間に出したんだっ）を見ながら
言った

「良いぜ」

Venus

「うわあ～服が沢山ありますね」

「そうだな」

「ヒロキさん着てみました」

早ツいつの間に

しかもウェンディが着ていたのは

「・・・・何故・・・・巫女装束なんだ・・・・」

そう巫女装束なのだ

何故あるのかは不明

「これはどうですか？」

「・・・・次はメイドかよ・・・・」

ウェンディガイドブックを見てみる

「はい」

俺はウェンディが持っていたガイドブックを見てため息をはいた

『コスプレ洋服店Venus』

コスプレ専門店かよ！

「ヒロキさんこれ着てください」

とりあえずウェンディに渡された服をきた

「・・・・忍装束・・・・だと」

「似合つてますよヒロキさん」

あまり嬉しくない

Venusではウェンディが何故か巫女装束を買った

「次はどうする？」

「あそこのアクセサリー店はどうですか？」

アクセサリーがあ良いな

アクセサリー店「コニコ

テキトーすぎんだろうが！！

「いろんな物があるな」

「・・・・・・・・・・（ジー）」

ウェンディから返事がない

「欲しいのか？」

ペアリング、相手の魔力をリングに貯えるとその相手と念話ができる

「良いなこれ

「買うか？」

「・・・・・（コクコク）」

俺たちはアクセサリー店でリングを買った後色々な場所を周り、帰つた

電車内

「今日は楽しかったですね～」

「そうだな」

「せっかくだリングに魔力を入れるか

（魔力注入中）

「入ったぞ

ほい

「私も終わりましたはい」

皆に買つたお土産を渡してくるか

ギルド

「マスター マグノリアの土産です

マグノリア酒

メンバーにはクッキーだな」

「おお、ありがたい」

「サンキューで～す」

こ～こ～こ～そのネタ禁止

シャルルにも土産のチョコを渡した

シャルルが固まっていたので理由をきくとウェンディの巫女装束らしい

「（あれは確かにナウナウ）」

オラシオンセイス討伐任務（前書き）

駄文かもしだせん汗
宣しくです

オラシオンセイス討伐任務

ギルド

「ふあ～、ねむ」

「ヒロキよ、寝不足か？」

「あ、マスター、おはよーです」

「お主に任務に行ってほしい」

「任務、その言葉で目が覚めた

「どんな任務ですか」

「闇ギルド、オラシオンセイス討伐じゃ

闇ギルド！？」

「ウエンディは行くきじや

「行きます。

俺はウエンディの剣であり盾ですから

「早速出発してほしい」

「了解

集合場所への道

現在某ラーメン好き忍者ようじく木の上を跳んでいる

「ウエンディ、落ちるなよ」

「は、はい！」

ぎゅ～

ウエンディが強く抱きしめてくる

あれか
「見えた、集合場所だ」

タン

ヤベツ跳びすぎた！！

「シャルル、ウェンディを頼む」

「あんた、どうする気？」

「行くぜ

韋駄天流・・・・・・・・疾風燕砲」

俺が夕凪をふると、鳥の形をした風圧が飛んでいく

ドゴーン

「よし、入るぞ」

「到着！」

「何してんのよ！！」

シャルルに怒られた

「ぶつかつたら痛いだろ！」

「だからって壊す必要ないでしょ！」

ルーシィ side

ハア、なんであたしがこの任務に？

ドゴーン

なに！？いきなり天井が壊れたんですけど！？

「到着！」

人が降りてきた

「何してんのよ！？」

ねこが喋った、ハッピーと一緒に、

「ぶつかつたら痛いだろ！」

そんな理由で天井壊したの！？

「だからって壊す必要ないでしょ！」

もう何が何やり

ヒロキ sisude

何だ？ やけに静かだな

「では、説明を始める」

《説明中》

成る程な

その六人を倒せば良いんだな

「一力所に集めるなんて面倒くさい、一気に森」と壊してやる

「お、氣があうな、俺はナツ」

「俺はヒロキだ以後よろしく」

ナツか面白いな

「どんな魔法使つんだ？」

「俺の魔法はドリゴンソウルだ」

「後で勝負だ！…！」

「良いだろう、受けて立つ！」

オラシオンセイス討伐開始

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3101x/>

フェアリーテイル 龍の魂を持つもの

2011年10月29日13時07分発行